

設立費用・年間維持コストの相場比較

単位：米ドル（USD）／日本円換算（1 USD = 150円換算）

コスト項目	① ピュアキャプティブ	② 保護セルキャプティブ（PCC）
初期設立費用	\$75,000 ～ \$150,000+ (約 1,125万 ～ 2,250万円)	\$20,000 ～ \$50,000 (約 300万 ～ 750万円)
最低必要資本金	\$100,000 ～ \$250,000+ (約 1,500万 ～ 3,750万円)	\$0 ～ \$50,000 (基本はコア資本を活用、 セル側は資本不要)
年間運営維持費	\$80,000 ～ \$180,000+ (約 1,200万 ～ 2,700万円)	\$30,000 ～ \$70,000 (約 450万 ～ 1,050万円)
適正年間保険料規模	\$3,000,000 以上 (約 4.5億円以上)	\$500,000 ～ \$2,000,000 (約 7,500万 ～ 3億円)

費用内訳の細目

1. 初期設立費用（イニシャルコスト）

①ピュアキャプティブ（\$75,000 ～ \$150,000）

- ・事業実現可能性調査（Feasibility Study）：\$15,000 ～ \$30,000（リスク分析・数理試算）
- ・法的・弁護士費用：\$25,000 ～ \$50,000（現地法人設立、定款・各種規定作成）
- ・ドミサイル（現地政府）申請・ライセンス料：\$5,000 ～ \$15,000
- ・キャプティブマネージャー・コンサル費：\$20,000 ～ \$40,000（申請書類作成・交渉）

費用内訳の細目

②保護セル（PCC）（\$20,000 ～ \$50,000）

主体（コア会社）の既存ライセンスやインフラを利用するため、手続きが簡素化され、法律・コンサル費用がピュアの3分の1程度に削減されます。

2. 年間運営維持費用（ランニングコスト）

①ピュアキャプティブ（\$80,000 ～ \$180,000 / 年）

- ・ マネジメント会社委託料：\$40,000 ～ \$80,000（日々の経理・アンダーライティング・規制対応）
- ・ 外部監査費用（Audit）：\$15,000 ～ \$30,000
- ・ アクチュアリー（保険数理人）費用：\$10,000 ～ \$25,000（責任準備金意見書等）
- ・ ドミサイル年間更新・税金等：\$5,000 ～ \$20,000
- ・ 現地役員・取締役会運営費：\$10,000 ～ \$25,000

②保護セル（PCC）（\$30,000 ～ \$70,000 / 年）

管理会社が複数セルの固定費を共通化（シェアリング）するため、監査・アクチュアリー、マネジメント会社の費用が大幅に抑えられます。

3. 5年間のトータルコスト試算例

年間保険料が200万ドル（約3億円）のプログラムを5年間運用した場合の試算例です。

3. 5年間のトータルコスト試算例

【ピュアキャプティブの5年総コスト】

初期設立費:	\$100,000
最低資本金:	\$250,000 (※自己資金の凍結・積み立て)
5年分の維持費:	\$600,000 (\$120,000 × 5年)
合計負担費用:	\$950,000 (うち資本金\$250,000は自社資産として残る)

【保護セル（PCC）の5年総コスト】

初期設立費:	\$30,000
最低資本金:	\$20,000
5年分の維持費:	\$225,000 (\$45,000 × 5年)
合計負担費用:	\$275,000

コスト面での結論・選定指針

1. 支払保険料が年間3億未満の場合

ピュアキャプティブを立ち上げると固定費比率が高くなり、キャプティブによる保険料削減メリット（自家保有利益）が相殺されてしまうため、保護セル（PCC）が推奨されます。

2. 支払保険料が年間3億円以上の場合:

コストは高くなるものの、運用の自由度や資産コントロール権が100%確保できるピュアキャプティブが適しています。